

課題名：パンデミック対策の国際比較と過去の事例研究を通じたELSIアーカイブ化

代表者：児玉 聡 (京都大学 大学院文学研究科 准教授)

参画機関：京都大学, 東京大学, 東北大学, 大谷大学, 明治学院大学, 日本医師会総合政策研究機構 など



課題概要

新型コロナウイルス感染症の世界的流行(パンデミック)は、現代社会に未曾有の危機をもたらしています。それは単に科学や医療のみによって解決できる問題ではなく、哲学・倫理学を始めとした人文社会科学の知を結集し、過去と現在の経験と知見を、未来の政策に反映させる必要があります。本研究では、パンデミック対策に伴うさまざまな倫理的・法制度的・社会的課題(ELSI)に関して、韓国や台湾を中心とする近隣のアジア諸国、また英国を中心とした欧米諸国の対応を、各種データベース等を用いた文献調査によって比較検討します。また、過去の日本の感染症対策についても調査し、COVID-19対応の特徴や課題を明らかにします。そして、以上の研究の成果を随時ウェブサイト (pandemic-philosophy.com) に掲載することにより、研究者、政策立案者、メディア関係者、市民の皆様役に役立つ情報提供を行います。

ポイント

- COVID-19対応のELSI検討という**喫緊の課題に対して迅速に応答**する点。
- 研究者、政策立案者、メディア関係者、市民の方々、といった**多くの人の役に立つ情報提供**を行う点。
- 台湾や韓国の対応といった**東アジア諸国への注目**により、欧米の議論の単なる輸入にとどまらない**独自の比較視点**が確保されている点。
- **slackやzoom**といったツールを用い、共同研究者間での**迅速な意見交換と情報共有**を実現している点。
- 院生やポスドクを積極的に研究参加させることで**若手研究者育成に積極的**である点。

